

終端駅からはじまる旅へ

関東ローカル鉄道の“終端”を旅する

地域鉄道は、観光地アクセスや地域の足としての役割ばかりではなく、地域特産品などの輸送手段として開業した路線など様々な歴史を持っており、各路線には非常に豊かな個性があります。それ故、路線の終端には風光明媚な観光名所ばかりでなく、のどかな山村や歴史ある寺社、鉄道の遺構や産業遺産など、それぞれに個性的な風景があります。

鉄道の終端は旅の目的地であることがほとんどですが、そんな地域鉄道の終端の先には、旅の醍醐味である未知との出会いが待っています。

今回は、関東の地域鉄道から、終端とその先にある風景をいくつかご紹介します。今度のお休みは、地域鉄道の終端駅を旅のゴール地点ではなく、スタート地点とする旅に出ませんか？

お出かけの際のおトクな情報は、各社ホームページに掲載中です。

☆☆ 関東運輸局と鉄道会社より ～ご注意とお願い～ ☆☆

※ご紹介しているイベント等の詳細につきましては、主催者HP等でご確認ください。

※写真の撮影を楽しまれる場合は、列車往来に十分注意していただくとともに、鉄道会社係員の指示に従ってマナーを守り、安全にお楽しみいただくようお願いいたします。他のお客様に迷惑をかける行為や危険な行為、列車の運行を妨げる行為、線路内や鉄道事業者が立入禁止とする箇所への立ち入りは絶対におやめください。



ローカル鉄道の原風景とも言うべき素朴な駅の佇まいが画になる、有名なローカル線終端駅です。ネーミングライツによる愛称駅名は「ありがとう」駅。木造の駅舎は大正12年築で、駅構内には旧型車両も保存されており、「どこか懐かしい」という表現そのままの風景がそこにはあります。駅を出て線路が向かってきた方向の道を進むと、海までまっすぐな急坂の道が伸びていて、真っ青な太平洋と銚子漁港が一望できます。

→銚子電鉄HP <https://www.choshi-dentetsu.jp/>



最急勾配40%の路線を経て到達する河口湖駅は、山小屋風の造りの「関東の駅百選」選定駅。駅舎を出た駅前広場には、富士急行の前身、富士山麓電気鉄道開業当初の車両が復元・保存されています。また、駅ホーム上からは、富士山を背後にした列車を見ることが出来るため、絶好の鉄道写真スポットとして知られています。河口湖畔まで足を運び、～河口湖～富士山パノラマロープウェイで行く富士見台駅も、知る人ぞ知る富士山の絶景スポットです。

→富士山麓電気鉄道HP
<http://www.fujiikyū-railway.jp/>





にしきりゅう 西桐生 (群馬県桐生市) 上毛電気鉄道



西桐生駅は「関東の駅百選」にも選定されており、昭和3年築の美しい駅舎とホーム上屋が国の登録有形文化財となっています。

上毛電気鉄道の両端駅は、JR駅と直接接続していません。西桐生駅～JR桐生駅は歩いて10分弱なので雰囲気は変わりませんが、反対側の中央前橋駅は、整然とビルが建ち並ぶJR駅とは対照的に、歴史を感じる繁華街となっています。こちらはJR前橋駅からは結構距離があるため、連絡バスが運行されています。街の雰囲気からその成り立ちを探る旅も面白そうです。

→上毛電鉄HP

<https://iomorailway.com/>



だいゆうざん 大雄山 (神奈川県南足柄市) 伊豆箱根鉄道 大雄山線



大雄山駅は「関東の駅百選」に選定されており、駅名となっている大雄山最乗寺は、紅葉が見事な名刹です。また、付近の金時山は金太郎のモデル、坂田金時の生地でもあるため、駅前では金太郎像が熊に跨がるおなじみのスタイルで出迎えてくれます。そして、隠れた名所は駅構内にある、亀が住む「かめ池」。亀たちは駅員さんに世話をしてもらおう返しに、駅を訪れる利用者に癒やしを提供してくれます。

周囲は足柄の山々に囲まれ、ハイキングコースも充実。金太郎や亀に元気をもらい、いざ出発! というのもアリですね。

→伊豆箱根鉄道HP

<https://www.izuhakone.co.jp/railway/index.html>



もてぎ 茂木 (栃木県芳賀郡) 真岡鐵道



SL転車台のあるのどかな駅です。転車台には歩行者通路があり、SLもおか号運行日にはSLの方向転換を間近から見るができます。また、かつては長倉線という延伸構想があり、線路終端部の先には、道路形状などからその跡を辿ることができる場所もあります。

駅前には城下町の趣があり、城址のある城山公園を正面に望む駅前通りには老舗商店が並びます。茂木といえば、自動車レースのサーキットでも有名ですが、未成線や城址など、好奇心をそそる一面を持つ懐の深さも魅力です。

→真岡鐵道HP

<https://www.moka-railway.co.jp/>



ごうら 強羅 (神奈川県足柄下郡) 箱根登山電車



駅伝でも有名な急勾配を3回のスイッチバックを経て登り、標高541mにあるのが終点強羅駅です。こちら「関東の駅百選」選定駅。姉妹鉄道であるスイスのレーティッシュ鉄道ゆかりの品々が並ぶこの駅は、鉄道線の終端駅ですが、ケーブルカーの始端駅。ケーブルカーは早雲山まで、そしてさらに先はロープウェイで桃源台(芦ノ湖畔)までアクセスが可能です。そのため、終端駅の駅名標としては珍しい次駅表示が。ロープウェイからの大涌谷の眺めは圧巻!

→箱根登山電車HP

<https://www.hakonenavi.jp/>





ながれやま

流山

(千葉県流山市)

流鉄



市の賑わいの中心は、つくばエクスプレス沿線に移りつつありますが、流山駅付近の流山本町界隈は、近藤勇陣屋跡や、行灯の優しい明かりが街並みを彩る行灯回廊など、旧街道筋の面影が色濃く残る、実に素敵で落ち着いた雰囲気のある街並みがあり、とても魅力的です。

思い立ったらすぐ行ける都心からの近さも流鉄の魅力のひとつです。

→流鉄HP <http://ryutetsu.jp>



間藤

(栃木県日光市)

わたらせ渓谷鐵道



わたらせ渓谷鐵道の前身は、足尾銅山から産出した銅を運搬する国鉄足尾線です。現在はここ間藤駅が終点ですが、鐵道の遺構はそのずっと先まで確認できます（レールは撤去されています）。

天然記念物カモシカが見られる駅としても知られている間藤駅は、実は有名な観光地「日光」への裏玄関でもあります。間藤駅から日光駅まではバス路線があり、わ鐵時刻表にも接続時刻が記載されています。わ鐵で行く日光の旅とは、何とも通好みです。

→わたらせ渓谷鐵道HP

<https://www.watetsu.com/>



りゅうがさき

竜ヶ崎

(茨城県龍ヶ崎市)

関東鐵道 竜ヶ崎線



駅名は「竜ヶ崎」ですが、町の名前は「龍ヶ崎」市。ちょっと不思議です。龍ヶ崎といえばやっぱりコロッケ！（もちろん他にもたくさんの魅力があります）ご当地メシ決定戦で優勝したこともあり、コロッケマップ片手にコロッケ巡りは龍ヶ崎散策の定番。

関東鐵道竜ヶ崎線は、全ての駅ホームが同一側にあるため、車両は運転台が前後とも同じ側にある珍しいつくり。また、ご当地キャラのラッピングを施した「まいりゅう号」では、つり革がコロッケ仕様になっています。

→関東鐵道HP <https://www.kantetsu.co.jp/>



しもにた

下仁田

(群馬県甘楽郡)

上信電鉄



何と言っても下仁田ネギで有名な下仁田町。その入口である下仁田駅も、「関東の駅百選」選定駅です。

南蛇井駅を抜けたあたりから並行道路や街並みが遠ざかり、車窓は急に山間のローカル線に。下仁田駅周辺は地質学的に貴重な場所が多い「ジオパーク」となっており、富岡製糸場と同じく世界遺産の「荒船風穴」などがあります。また、こんにゃく料理やソースカツ丼など、隠れたご当地グルメの宝庫でもあります。

→上信電鉄HP

<https://www.joshin-dentetsu.co.jp/>





ふじさわ

藤沢

(神奈川県藤沢市)

江ノ島電鉄



海岸を離れてから併用軌道进行抜け、江ノ島駅を出発した江ノ電は、湘南の落ち着いた街並みを経て高架橋へ。地域鉄道では珍しい高架の終端駅である藤沢駅は、駅前ビル2階にホームがあり、地方中核のターミナル駅としていつも賑わっています。線路端の車止め付近には、ビュースポットとして花時計が設置されており、インスタ映えのする花時計越しの江ノ電が撮影できます。

もう一方の終端、鎌倉駅に比べて観光のイメージは薄いですが、古くは東海道五十三次の6番目の宿場・藤沢宿として栄え、その様子は浮世絵にも描かれています。当時からの名所である時宗総本山遊行寺には、国宝や重要文化財、文化庁指定の登録有形文化財があります。

→江ノ島電鉄HP <https://www.enoden.co.jp/>



みつみねぐち

三峰口

(埼玉県秩父市)

秩父鉄道



言わずと知れたパワースポット「三峯神社」の最寄り駅です。

「関東の駅百選」選定駅。秩父の山々に囲まれ、荒川の深い渓谷に沿うのどかな駅前には、2020年にリニューアルされた秩父鉄道SL転車台公園があり、鉄道ファン必見のスポットです。SL運行日には乗車客や見学者が集まり、賑やかな一時が訪れます。駅の先にはかつて石灰石の積み込みに使用していた廃線路も。秩父鉄道は、秩父山系で採掘される石灰石輸送が盛んで、現在は、影森駅～武州駅を経由し、貨物専用線三ヶ尻線で三ヶ尻駅まで輸送しております。

三峯神社へはここからさらにバスで1時間弱。容易に人を寄せ付けない孤高の名刹で授かるパワーと秩父の山々の絶景は必見！

→秩父鉄道HP <https://www.chichibu-railway.co.jp/>



かずさなかの

上総中野

(千葉県夷隅郡)

いすみ鉄道・小湊鐵道



房総半島の中程にある上総中野駅は、内房からの小湊鐵道、外房からのいすみ鉄道の終着駅です。多くの人それぞれの路線を乗り継いで、房総半島縦断の鐵道旅の中継地点として訪れます。

乗り継ぎは隣同士のホームなので2分もあれば十分なのですが、土休日の運行ダイヤでは、ほとんどの列車で20～30分の余裕があります。都心から比較的近いにもかかわらず里山の自然が豊かな駅で過ごすのどかな乗り継ぎ時間は至福のひとつとき。

→いすみ鉄道HP <https://isumirail.co.jp/>

→小湊鐵道HP <https://www.kominato.co.jp/>



あいづこうげんおぜぐち

会津高原尾瀬口

野岩鐵道

(福島県南会津郡)



栃木県奥鬼怒の名湯秘湯を結ぶ「ほっとスパ・ライン」野岩鐵道の終端は、会津高原尾瀬口駅。県境を跨ぐ長い山王トンネルを抜けると、そこはまさしく雪国の駅。雪国の四季それぞれの風景が堪能できるのどかな駅は、春から秋にかけては尾瀬への玄関口として、冬はスキー場の玄関口として賑わいます。また駅構内には、SL運行時に使用していた転車台があります。(普段は立ち入れません)

→野岩鐵道HP

<http://www.yagan.co.jp/>





あじがうら 阿字ヶ浦

ひたちなか海浜鉄道



阿字ヶ浦
あじがうら
Ajigaura

高台にある駅から少し歩くと、眼下に太平洋が開けてきます。阿字ヶ浦駅は“東洋のナポリ”とも称される阿字ヶ浦海水浴場や阿字ヶ浦温泉の最寄り駅で、かつて国鉄の海水浴客用臨時列車が乗り入れた名残で、とても長いホームがあります。

素晴らしい花が咲き誇ることや大規模な音楽フェスで有名な国営ひたちなか海浜公園も近く、公園への路線延伸計画もあります。

→ひたちなか海浜鉄道HP

<http://www.hitachinaka-rail.co.jp/>



かしま

鹿島サッカースタジアム

鹿島臨海鉄道 (茨城県鹿嶋市)



鹿島臨海鉄道は、終端駅がサッカー試合開催日などのイベントがある日のみ開設する臨時駅という珍しい路線。通常はJR線に乗り入れて次駅の鹿島神宮駅まで運行しています。

駅の先にも、JR線とは別に鹿島臨海鉄道の線路がありますが、こちらは貨物専用。とはいえ、貨物線内にある神栖駅には車両基地があるので、回送する旅客列車が乗り入れていきます。臨時の終端駅に旅客車両が行き来する貨物線と、珍妙な特徴が盛りだくさん。降りて旅に出るのは難しいですが、列車に乗って確かめに行ってみるといっても、楽しい旅になりそうです。

→鹿島臨海鉄道HP <https://www.rintetsu.co.jp/>

いずきゅうしもだ

伊豆急下田

(静岡県下田市)

伊豆急行



中部の駅百選に選定された伊豆急下田駅は、黒船のペリー提督来航の地として有名な下田の玄関口であり、黒船を模した改札口が来訪者を迎え入れます。改札を抜けて下田港方面へ足を運ぶと、歴史的建造物が建ち並ぶ「ペリーロード」があります。歴史と旅情溢れる下田散策もさることながら、伊豆急下田駅は地域プロモーション列車「キンメ電車」をはじめ、JR線から直通運転する観光列車など、多彩な乗り入れ車両に出会えることも魅力の一つです。

→伊豆急行HP <https://www.izukyu.co.jp/>

にしわかまつ

西若松

(福島県会津若松市)

会津鉄道



会津鉄道の列車はJR只見線に直通し、通常は会津若松駅まで運行していますが、路線の終点は西若松駅となっています。西若松駅は、戊辰戦争の攻防で有名な鶴ヶ城（会津若松城）の最寄り駅でもあります。

「ちょっと遠くへ鉄道旅」を思い立った週末には、野岩鉄道～会津鉄道～JR磐越西線経由の大回遊はオススメです。優等列車を使えば、各地を立ち寄ってもぎりぎり一日で行程を組むことが可能です。

→会津鉄道HP <http://www.aizutetsudo.jp/>

ここでは、各路線の片方ずつの終端駅だけを紹介しました。ということは、関東の地域鉄道には、ほぼ倍の数の終端駅があります。それぞれの終端駅とその先で、自分だけの名所を探してみてください。地域鉄道各社は、魅力を満載して皆様のご乗車をお待ちしています！